

機能性もファッション性も兼ね備えた新発想の防災アイテムが誕生

～昨年大好評のミサンガがパワーアップ&最旬マリンアイテム～

一般社団法人防災ガール（代表理事：田中美咲 以下、防災ガール）は「海と日本プロジェクト」の一環として展開中の津波防災プロジェクト「#beORANGE（ハッシュビーオレンジ）」のオフィシャルアイテム「#beORANGEミサンガ」と「#beORANGEラウンドタオル」を2017年7月17日（海の日）に販売いたします。

■アイデア次第で多彩な使い方ができる、これまでにない防災アイテム

1：パワーアップした「#beORANGEミサンガ」

「#beORANGEミサンガ」は、日常的に着用できるファッションアイテムでありつつ、津波防災の普及啓発プロジェクト「#beORANGE(<http://beorange.jp/>)」への賛同が示せる防災アイテムです。昨年6月の販売開始時には「こんなおしゃれで便利な防災グッズならほしい」と20～30代を中心に幅広い層から注目いただき、一時は売り切れとなる事態に。そして、この夏、さらにパワーアップして登場しました！

これまでの防災グッズは、“非常時にのみ使う”、“普段は使わない”といったイメージがありましたが、「#beORANGEミサンガ」は、普段からも着用できるほか、耐久性と強度に優れたパラコードという素材を採用しており、これ一つで止血帯やデンタルフロスといった多様な用途に応える機能を備えています。

2017年版は、使い方がさらに増え、暗闇でも光る蓄光機能と、ファイヤースターター（火打ち石）を搭載しました。タウンユースはもちろん、マリンレジャーやキャンプの際にもおすすめです。

■用途：

笛、火おこし、ものほし、シェルター、デンタルフロス、止血帯、着火剤、救助の合図、靴紐など



2：命を守る「#beORANGE ラウンドタオル」

「#beORANGEラウンドタオル」は普段はレジャーシートやブランケットとして使い、緊急時には裏返して津波を知らせる「オレンジフラッグ」としても使用できる防災アイテムです。

ラウンドタオルは、SNSで話題となり今世界的に人気のファッションアイテム。

「#beORANGEラウンドタオル」は、表面は今年の流行のアビスブルーと海の朝焼けをイメージしたパープルピンクの華やかなタイダイ柄、裏面は鮮やかなオレンジ色となっています。

羽織ると全身が包まれるほどの大判なタオルなので、ビーチシートとして砂浜に敷いたり、体に巻いて着替えることができたり、肌寒いときにはブランケットにしたり...とアイデア次第で何通りもの使い方が可能です。

■用途

タオルケット、オレンジフラッグ、ブランケット、ソファーカーバー、ラグマット、ピクニックシート、ヨガマット、タオルケット、テーブルクロス、ベッドスローなど



■#beORANGEとは

津波防災の普及啓発プロジェクト#beORANGE（ハッシュビーオレンジ）は、視認性が高い“オレンジ”色の旗で、津波のおそれがある際に海辺や沖に出ている人に避難を促す「オレンジフラッグ」を広めることを目的としています。

「赤信号は止まれ」と誰もがわかるのと同じように、「オレンジフラッグは津波が来た」の合図だと浸透させていくことを目指し、2016年に一般社団法人防災ガールと日本財団の共催でスタート。

今後30年以内に70%の確率で起こるとされる「南海トラフ地震」を想定し、太平洋沿岸地域を中心として、オレンジフラッグの活用を継続でき、定期的に「津波防災訓練」などに導入できる仕組みを構築。地域ぐるみの「津波防災」の普及浸透に取り組んでいます。



■オレンジフラッグの意味（地震発生時）

【浜辺・海の場合】

- 1.ビーチなど海にいる人に見える場所でオレンジフラッグを振り、海に出ている人に向けて「早く浜に上がれ、津波が来る」ということを伝える
- 2.津波避難ビル・タワー等にかかげ、津波から避難できる場所であることを避難者に伝える

【海が近い街の場合】

- 1.津波避難ビル、タワーにオレンジフラッグを掲げ、避難できる場所を避難者に伝える



オレンジフラッグを見たら、海から上がる



津波避難ビルやタワー等にかかげられてあるオレンジフラッグに向かい、高い所に登る

アイテムの購入先

- ・#beORANGE WEBショップ：<https://beorange.thebase.in/>
- ・RESQUAD 原宿店・立川店・名古屋店・京都店：<http://rescue99.com/>

運営者情報

防災ガール

■ 防災ガール URL：<http://bosai-girl.com/>

2013年3月設立、2015年3月11日に法人化。「防災があたりまえの世の中に」を目指すべく、20代～30代を中心に構成されたソーシャルスタートアップ。常に今ある「あたりまえ」を疑いながら防災や生きることについて考え、商品開発やイベントプロデュースを通して、フェーズに合わせた新しい防災の概念をさまざまな形で提起し続けます。

共催



■ 海と日本プロジェクト URL：<http://uminohi.jp/>

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、ときに心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。

そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子供たちをはじめ全国の人たちが「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、日本財団の旗振りのもと、オールジャパンで推進するプロジェクト。

<本プロジェクトに関する報道関係者のお問い合わせ先>

「#beORANGE」プロジェクト 広報・PR担当：筒木

TEL：03-6801-5144 MAIL:bosai.girl@gmail.com

「#beORANGE」は、海と日本PROJECTの一環で実施しています。